

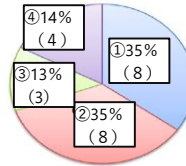
I. 府内の状況と課題

京都府下（京都市を除く）の中学校は96校（令和5年度）
文化部活動は233あり、休日に活動している部活動数は85部活動、そのうち吹奏
楽部が70である。

令和4年度は実証事業に取り組む自治体がなかったが、令和5年度は精華町に
おいて民間事業者が設立した吹奏楽団と連携し実証研究を進めた。

各自治体における地域移行に係る検討委員会の設置の状況は、設置済みが
35%であり、各自治体での地域移行を進めるためにも、京都府地域クラブ活動推
進指針を令和6年3月に策定した。

地域移行に係る検討委員会は設置の有無



- ①設置済み
②R5設置予定
③R6以降の設置に向けて検討中
④その他
○その他として、高齢化少子化が進み環境が厳しく検討できていない等が挙げられた。

府の取組

他部局との協力体制	○
県内自治体への説明・周知	○
教員等への理解促進	—
保護者・生徒への周知・説明	—
人材バンク設置	△
教育施設活用手段の整備	△
参加費用負担の検討	△

II. 取組内容と成果

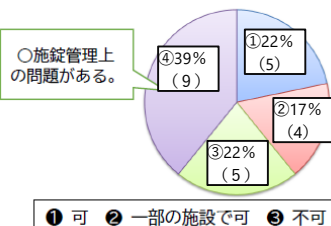
活動場所の確保に関する取組

【取組内容】

・市町（組合）教育委員会へのヒアリング

【成果】

ヒアリングの結果、学校の教室、音楽室等の文化施設の開放について、
不可と回答した教育委員会が22%、その他が39%であり、施設管理上の
問題があるとの回答が多く、学校施設を活用するための方策の検討の必要
性が明らかになった。

地域クラブ等への学校の施設開放はできるか。
(教室、音楽室等の文化施設)

○施設管理上の問題がある。

関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備に関する取組 関係団体との連携強化の取組

【取組内容】

- ・京都府地域クラブ活動推進検討委員会の設置
- ・同委員会においてモデル地域の実践研究の成果報告を実施
- ・京都府地域クラブ活動推進指針の策定

【成果】

- ①委員会設置による関係団体（吹奏楽連盟）との連携強化
- ②公開地域クラブ活動を実施
実証事業実施自治体の地域クラブ活動を公開し、意見交換を行った。
- ③地域クラブ活動説明会を実施
先進地域の事例を市町（組合）教育委員会にご紹介いただいた。

III. 地域移行に向けた課題・今後の方針

【課題】

- ・学校施設の活用方策
- ・費用負担
- ・指導者の確保

【令和6年度の取組方針】

- ア コーディネータの配置及び地域移行・地域連携の状況把握
- イ 京都府地域クラブ活動推進検討委員会の継続設置
- ウ 府立高等学校附属中学校の現状把握及び意識調査
- エ 府立学校への開放型地域クラブの新規設置
- オ 府立学校施設の活用整理
- カ 人材バンクの設計
- キ 資質向上等の指導者研修会の開催

【参考】

「京都モデル」オール京都で目指す新しい活動スタイル

★地域への新しい活動スタイル（地域クラブ活動）

1. 多様な子どもたち一人一人を大切に、誰一人取り残さずとなく、個性や能力を最大限伸ばすという視点を踏まえ、持続可能な学校部活動の成立しない地域や学校、部活動の子どもたちが、新しい活動の機会においても、自発的に自分の希望するスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができるスタイルを目指す。
2. 子どもたちの成長を見守り支えてきた学校・家庭・地域のコミュニティのそれぞれの強みを活かし、持続可能な学校部活動の成立しない地域や学校、部活動の子どもたちが、新しい活動の場においても、安心して自分の希望するスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができるスタイルを目指す。
3. 子どもたちの「よっ、さあ、やってみよう！」という「スポーツごころ」のはぐくみは、文化芸術活動にもつながる心のありようであり、すべての子どもたちが、新しい体験の機会を通して、自分に適したスポーツ・文化芸術活動の新しい発見ややり親しむことができるスタイルを目指す。

★学校での新しい活動スタイル（学校部活動）

1. 学校部活動の目的を十分に果たし、子どもたちにとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築が徹底されるスタイルを目指す。
2. 少子化や子どもたちの多様なニーズに対応し、多くの子どもたちの活動が行われるスタイルを目指す。
3. スポーツや文化芸術活動が苦手な子どもたちや障害のある子どもたちが参加しやすいよう、スポーツ・文化芸術活動に親しむことを重視し、一人一人の違いに応じた課題や挑戦が大切にされるスタイルを目指す。
4. 学校と地域との連携・協働により、学校部活動のあり方に関し速やかに改革に取り組み、生徒や保護者の負担に十分配慮しつつ、持続可能な活動環境が整備されるスタイルを目指す。

★単に学校部活動を学校から切り離すということではない京都モデルの着地点

1. 新しい活動スタイルの主体は子どもたちであり、その子どもたちがマイスポーツや文化芸術活動を親しみ幸せを実感する。
2. ライフスタイルが好転した教員の学校教育活動の質の向上に向けて、また、自身の指導力を地域に生かして幸せを実感する。それを支える地域社会が幸せを実感する。

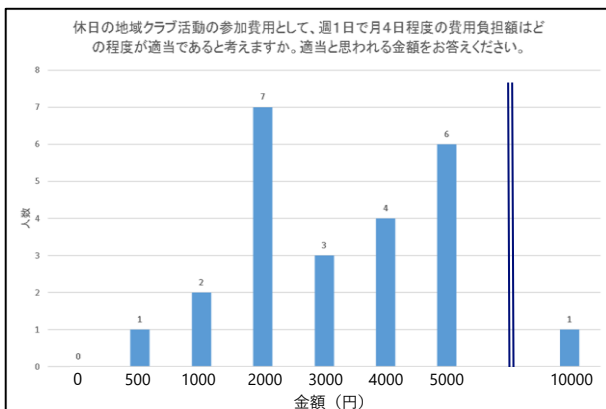
参加費用負担の支援等に関する取組

【取組内容】

費用負担額に関するアンケートの実施（対象：実証事業参加者の保護者）

【成果】

○費用負担額に関するアンケート結果（回答数24）



・活動の内容や指導者の質によっては、ある程度の費用負担についての理解がある。

・経済的に困窮する家庭に対してどのような形で支援するのかを検討する必要がある。

I. 基本情報

運営主体： けいはんなユースウインドオーケストラ（MyRhythm音楽事務所）
 事業目標： 生涯を通じて吹奏楽に親しむことができるよう基礎を楽しくしっかり定着させる地域吹奏楽団を運営する。

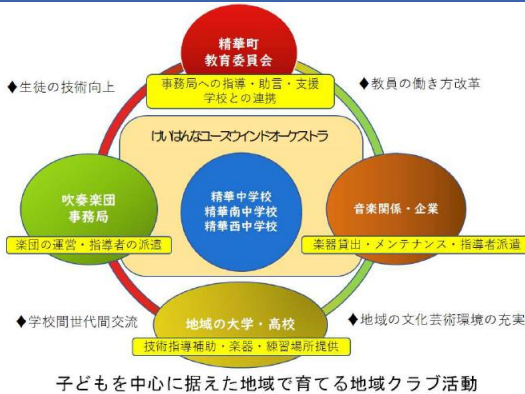
活動種別

吹奏楽

運営形態

地域移行・団体等運営型

団体・組織等の連携



活動場所

京都廣学館高等学校

鍵、校舎管理の工夫・現状

参加生徒の基本情報

小学生 7名(精華町全員)
 中学生 44名(精華町25名)
 高校生 70名
 計 121名

指導者の基本情報

専門の楽器講師 30名

活動財源・自己調達財源

参加費
 500円(1回あたり)
 のべ592名

II. 活動概要・取組

けいはんな地区の小、中、高生がけいはんなユースウインドオーケストラ（吹奏楽団）に参加した。

期間 令和5年10月8日から6年2月3日まで
 会場 主として京都廣学館高等学校
 練習日 月に3回程度 全11回 各3時間程度
 内容 パートレッスン
 セクションレッスン
 ソルフェージュ
 合奏レッスン

III. 成果

参加者からは、

- ①知識・技術を習得し向上できた。
- ②学校部活動より専門的な指導が受けられた。
- ③吹奏楽の活動をすることの楽しさと喜びを味わえた。などの感想が寄せられた。

精華町としては、文化部活動の地域移行に向けて、持続可能な環境を整え、より専門的な指導を受けられる基盤づくりに歩み出すことができた。



IV. 課題と今後の方針

- ・講師謝金、会場費、楽器道具の保守のための費用を確保する。
- ・活動場所の確保とその施設管理が必要である。
- ・学校と指導者との連絡調整と情報共有が必要である。
- ・けいはんな学研都市にある企業、団体等へ支援や協力を求める。
- ・地域に広く楽団の活動の理解を深め、楽団の地域貢献の活動を通じて、持続可能な環境を整える。

成果報告書（都道府県用）

文化部活動の地域移行に向けた実証事業

自治体名・担当部署	京都府 教育庁指導部学校教育課
所在地	京都府 京都市
本事業に関する都道府県としての取組・考え	<ol style="list-style-type: none"> (1) 京都府推進計画の策定及び周知 (2) 京都府地域クラブ活動推進検討委員会の継続設置 (3) モデル地域による実践研究の支援 (4) 市町村向け説明会によるモデル地域の取組状況等の共有 (5) 人材バンクの開設等に係る関係機関との連携に向けた研究 (6) アドバイザー派遣による各地域での具体的協議への指導助言 (7) ホームページの充実と積極的な情報発信
本事業に関する地域の背景・実情	<p>令和5年6月時点 京都府下（京都市を除く）の中学校は96校ある。 文化部活動の数は233部活動あり、そのうち休日に活動している部活動数は85部活動、そのうち吹奏楽部が70部活動となっている。 文化部活動の地域移行の取組を進めるにあたり、精華町において民間事業者が設立した吹奏楽団と連携し実証研究を進める。</p>
運営主体	精華町 けいはんなユースウインドオーケストラ（My Rhythm音楽事務所）
団体・組織等の連携	<p>京都府地域クラブ活動推進検討委員会の設置委員として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府中学校校長会 ・ 京都府PTA協議会 ・ 京都府吹奏楽連盟 ・ 京都府立高等学校校長会 ・ 京都市市町村教育委員会連合会教育長部会と連携 <p>実証事業再委託先自治体（精華町）との連携</p>
スケジュール（年間）	<p>7月 第1回京都府地域クラブ活動推進検討委員会 10月 京都府地域クラブ活動説明会 11月 京都府実証事業自治体における公開地域クラブ活動 2月 第2回京都府地域クラブ活動推進検討委員会</p>
持続的に活動することを前提とした取組状況	京都府地域クラブ活動推進検討委員会の設置
ヒアリング、アンケート等実施 ※集計結果等があれば別紙で提出ください	各市町（組合）教育委員会へヒアリングを実施 ※集計結果は別紙

○本年度の取組み状況の概要

都道府県が直接実施した取組項目、取組内容（「※」ア、イ、ウ、カは都道府県の必須取組項目）

ア:関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備「※」

京都府地域クラブ活動推進検討委員会の設置
京都府地域クラブ活動推進検討委員会によるモデル地域の実証研究への指導助言

イ:指導者の質の保障・量の確保「※」

人材バンクの開設に向けた文化芸術団体等との連携に向けた研究
・京都府吹奏楽連盟には現在のところ指導者の人材バンクはない

ウ:関係団体・分野との連携強化「※」

・京都府地域クラブ活動推進検討委員会設置による関係団体（京都府吹奏楽連盟等）との連携強化
・公開地域クラブ活動を実施
・地域クラブ活動説明会を実施

エ:面的・広域的な取組

広域的な活動 近隣の市町村からも参加可能な活動（精華町（木津川市・京田辺市））

オ:内容の充実

実証事業参加者へのアンケートにより、指導方法、指導内容、活動の回数等について検証

カ:参加費用負担の支援等「※」

実証事業参加者に対し費用負担に関するアンケートの実施

キ:活動場所等の確保

市町（組合）教育委員会へのヒアリングより、学校の教室、音楽室等の文化施設の開放について、不可22%、その他39%で施設管理上の問題があるとの回答が多かった。学校施設の活用について方策の検討が必要である。

○本事業による成果

- (1) 京都府地域クラブ活動推進指針の策定
- (2) 京都府地域クラブ活動推進検討委員会の継続設置
- (3) モデル地域による実践研究（精華町）
- (4) 市町村向け説明会による先進地域の取組状況等の共有
- (5) 人材バンクの開設等に係る関係機関との連携に向けた研究
- (6) 各市町（組合）教育委員会へヒアリングを実施
- (7) ホームページの充実と積極的な情報発信

○取組上の工夫

京都府教育庁指導部保健体育課と連携し、運動部活動についても同様に実証事業を行い、文化部活動とあわせて地域移行について検討を行った。

○地域移行を実施する上で策定・使用したルール等

京都府学校部活動及び地域クラブ活動推進指針の策定(令和6年3月)

○令和6年度以降の学校部活動の地域移行に関する方針・計画

令和6年度

- ア コーディネータの配置及び地域移行・地域連携の状況把握
- イ 京都府地域クラブ活動推進検討委員会の継続設置
- ウ 府立高等学校附属中学校の現状把握及び意識調査
- エ 府立学校への開放型地域クラブの新規設置
- オ 府立学校施設の活用整理
- カ 人材バンクの設計
- キ 資質向上等の指導者研修会の開催

【活動の様子（写真添付）】

成果報告書（市区町村用）

文化部活動の地域移行に向けた実証事業

自治体名・担当部署	精華町教育委員会 生涯学習課		
所在地	京都府相楽郡精華町南稲八妻 北尻70番地	運営形態	地域移行・団体等運営型
本事業に関する市区町村としての取組・考え	事業目標を達成するため、運営団体・実施主体等の体制整備や指導者の確保、参加費用負担への支援等を実施する。		
運営主体	けいはんなユースウインドオーケストラ (MyRhythm音楽事務所)		
事業目標	学校単位での部活動の存続が困難になる状況を鑑み、子どもたちが地域で文化芸術に親しみ、持続可能な活動ができる環境を整える。		
団体・組織等の連携			
運営・協議会等スケジュール	精華町地域クラブ活動推進検討委員会を開催した。必要に応じ町教育委員会とけいはんなユースウインドオーケストラと協議、調整を行った。		
活動種別	吹奏楽		
活動スケジュール	基本活動日	月3回程度（土曜日又は日曜日）	
	年間	練習としては、令和5年10月から令和6年2月までに、計11回実施。①10月8日（日）②10月15日（日）③10月22日（日）④11月4日（土）⑤11月11日（土）⑥11月26日（日）⑦12月2日（土）⑧12月9日（土）⑨1月13日（土）⑩1月21日（日）⑪2月3日（土）その他、成果発表会を3月10日（日）に開催。	
活動場所	主に京都廣学館高等学校 成果発表会は、けいはんなプラザ メインホールで開催。		

移動手段	生徒	公共交通機関等、または保護者による送迎など。
	楽器等用具	主として個人所有の楽器。一部は中学校所有の楽器、大型楽器は京都廣学館高等学校所有の楽器を使用
参加者	学校名、人数等	精華中学校9名、精華西中学校14名、精華南中学校2名など
	募集方法	けいはんなユースウインドオーケストラが案内チラシを各学校を通じて配布(8月ごろ)
指導者	属性、人数等	30名(専門楽器指導者など)
	募集方法	けいはんなユースウインドオーケストラが専門講師を配置
活動費用	指導者謝金等	謝金2,500円/時間
	その他	-
活動財源	会費等	練習1回あたり500円を徴収
	その他	「令和5年度京都府文化庁活動の地域移行に向けた実証事業委託金」
保険加入等		スポーツ安全保険
ヒアリング、アンケート等実施 ※集計結果等があれば別紙で提出ください		令和4年9月、5年12月、6年1月

○本年度の取組み状況の概要

ア:関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

MyRhythm音楽事務所が、令和5年10月に、けいはんなユースウインドオーケストラを立ち上げた。

イ:指導者の質の保障・量の確保

けいはんなユースウインドオーケストラが、専門の楽器指導者を30名配置している。

ウ:関係団体・分野との連携強化

国内楽器製造会社や楽器店などと教育委員会とが確認、連携等を図っている。

エ:面的・広域的な取組

精華町のみならず、けいはんな地区の市町の小中高生を楽団の対象としている。

オ:内容の充実

専門の楽器指導者を配置することで、練習内容が充実している。

カ:参加費用負担の支援等

今後、検討予定

キ:活動場所等の確保

令和5年については、精華町内の京都廣学館高等学校の協力を得て実施できた。

○地域クラブ活動の概要

毎月3回の練習日を設けること、練習内容もパート練習、合奏などにより、質の高い活動ができている。

○本事業による成果

- ・生徒が専門的な指導を受けられ、技術の向上による合奏の充実感を得ることができた。
- ・地域で文化芸術に親しみ、持続可能な活動ができる環境の基盤づくりに着手できた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

※顧問と地域指導員の連携や指導方法の共通認識に関する工夫も含めて記入。

- ・教員と指導者との連携を進め指導内容に対する混乱を避けるよう指導する。
- ・生徒指導や体調管理等保護者との連携を進め、安心して活動できるよう配慮する。
- ・技術指導者への研修を実施する。
- ・3中学校を練習場所として計画し活用する。

○運営上の工夫

※活動場所に中学校など学校施設を利用している場合の校舎・鍵の管理の現状・工夫も含めて記入

けいはんなユースウインドオーケストラの代表が京都廣学館高等学校の吹奏楽部外部顧問でもあるため、練習場所と大型楽器使用の協力を得ている。

○本事業における実証結果や成果の評価・分析

参加者からは、①知識・技術を習得し向上できた。②学校部活動より専門的な指導が受けられた。③吹奏楽の活動をする
ことの楽しさと喜びを味わえた。などの感想が寄せられた。

精華町としては、文化部活動の地域移行に向けて、持続可能な環境を整え、より専門的な指導を受けられる基盤づくりに
歩み出すことができた。

○現状及び継続的な運営に関する課題

- ・講師謝金、会場費、楽器道具の保守のための費用を確保する。
- ・活動場所の確保とその施設管理が必要である。
- ・学校と指導者との連絡調整と情報共有が必要である。
- ・けいはんな学研都市にある企業、団体等へ支援や協力を求める。
- ・地域に広く楽団の活動の理解を深め、楽団の地域貢献の活動を通じて、持続可能な環境を整える。

○令和6年度以降の学校部活動の地域移行に関する方針・計画

・令和8年度から休日の活動の場を地域へ完全移行することを目指して、けいはんなユースウインドオーケストラがその受け皿として、持続可能な事業主体となるか、「自主運営」「組織体制の整備」「段階的な生徒の受け入れ」「指導者の資質向上」等、運営体制についての検討のため、引き続き、京都府地域クラブ活動推進事業を委託する。

・運営主体は、自走を目指し自主運営による持続可能な活動ができるように、受益者負担の調整や協賛企業の獲得など検討を進めている。

・中学校施設の活用を計画的に行う。

【活動の様子（写真添付）】

